

団地内公園再編と運営の
産官学民連携可能性調査

報 告 書

令和4年3月

河内長野市
株式会社日建設計総合研究所

目次

1. 本調査の概要.....	5
1-1 調査の目的.....	5
1-2 自治体及び対象地区の概要.....	5
①河内長野市の概要.....	5
②南花台地域の概要.....	5
③南花台モビリティ「クルクル」について.....	9
1-3 事業発案に至った経緯・課題.....	10
①河内長野市が抱えている課題と対象地区の概要.....	10
②南花台地域のまちづくり活動（これまで実施している施策や関連事業等）.....	10
③その他の現状の課題認識等.....	12
④本事業の目的、実施内容及び期待される効果等.....	13
1-4 検討体制の整備.....	13
①庁内の検討体制およびその他の関係者との協力体制.....	13
2. 本調査の内容.....	14
2-1 調査の流れ.....	14
3. 前提条件の整理.....	15
3-1 対象施設及び対象地の概要.....	15
①サッカースタジアム整備及び新規公園整備の概要.....	15
②南花台地域内の14公園（既存公園）の概要.....	18
4. 再編（公園集約・スタジアム建設）における市民ニーズ、周辺環境変化等の調査及び検討.....	23
4-1 住民参加のワークショップ等による意見収集・分析並びに情報発信.....	23
4-2 住民アンケート調査.....	31
①住民アンケート調査計画.....	31
②住民アンケート調査の結果概要.....	31
4-3 人流・交通量調査・分析1：交通量調査.....	39
①交通量調査の目的と前提条件等.....	39
②交通量調査の実施計画.....	39
③交通量調査の結果概要.....	42
4-4 人流・交通量調査・分析2：公園利用調査.....	53
①公園利用調査の目的と前提条件等.....	53
②公園利用調査の実施計画.....	54
③公園利用調査の結果概要.....	59
4-5 交通流の分析及び適正駐車場台数の検討.....	74
①現況交通量調査を踏まえた適正駐車場台数の推計.....	74
②必要となる駐車待ちスペースの算定.....	86
③考えられる対策等.....	86
4-6 再編課題整理及び解決策の検討.....	87
①住民アンケート調査により抽出された課題.....	87
②公園利用調査により抽出された課題.....	87
③交通流の分析及び適正駐車場台数の検討により抽出された課題.....	87
4-7 集約公園跡地活用案の作成.....	88
5. 公園再編、跡地活用、スタジアム建設、地域ポイントの仕組検討.....	90

5-1 全体事業スキーム検討	90
5-2 役割分担及びリスク分担	94
①施設整備までの市（公共）と民間事業者の役割分担（案）	94
②施設整備までの市（公共）と民間事業者のリスク分担（案）	96
5-3 地域ボランティアポイントを活用した公園除草実証実験実施（アンケート調査の実施・分析を含む）	98
6. 民間事業者サウンディング	103
6-1 集約公園跡地活用事業者サウンディング	103
①サウンディング調査の目的	103
②スケジュール	103
③サウンディング調査の対象者	103
④サウンディング調査の項目	103
⑤参加事業者の状況	105
⑥参加事業者からの主な意見	105
7. 産官学民連携による新規整備公園・スタジアムの最適な管理手法の検討	108
7-1 事業スキーム検討	108
7-2 コスト算定、役割分担、リスク分担の検討	110
①新規公園（集約公園）の整備費用について	110
②スタジアムの管理項目事例	112
③維持管理・運営段階における市（公共）と民間事業者の役割分担（案）	115
④維持管理・運営段階における市（公共）と民間事業者のリスク分担（案）	117
8. 事業実現に向けたロードマップの作成	119
8-1 ロードマップ	119
8-2 今後の検討課題の整理と対応の方向性	120
①スタジアム整備に伴い想定される課題	120
②スタジアム整備と新規公園整備の事業化に向けて想定される課題	120
③公園跡地活用の方向性に関して想定される課題	120

1. 本調査の概要

1-1 調査の目的

事業対象の南花台地域は、大阪府や関西大学、民間事業者などと連携し開発団地の再生を図る「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業を実施してきたエリアであり、「まちの活力向上（地域活動創出）」「まちの魅力向上」「地域内経済循環創出」等に向け、UR南花台団地の団地集約事業により創出される跡地に、エリア内に点在する公園の再編を踏まえた新規公園の整備とサッカースタジアムの建設を進める予定である。

本業務では開発団地の再生モデルとして、公園再編、新たな公園整備、スタジアム建設を一体的に進め、子育て世代の転入促進につながる地域の魅力向上と、新たに生まれる公共施設の産官学民連携の効率的な維持管理の可能性を調査することを目的とする。

1-2 自治体及び対象地区の概要

①河内長野市の概要

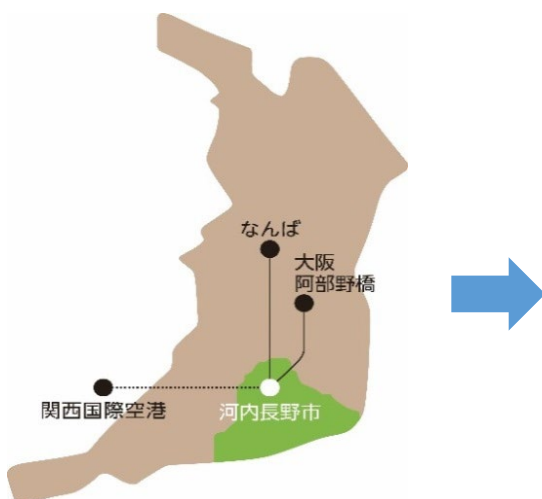
河内長野市は、大阪府の南東端に位置し、和歌山県（橋本市・かつらぎ町）・奈良県（五條市）と接している。

- ・面積：109.63 km²
- ・人口：102,920 人（令和3年3月末時点）

また、市の主な特徴としては、下記が挙げられる。

- ・大阪府下33市中でも最も少子高齢化・人口減少が進行
- ・高齢化率：35.4%（33市中1位）
- ・人口増減率：-1.26%（33市中32位）
- ・大阪府下で大阪市・堺市に次いで市域面積が3番目に広く市域の7割が森林
- ・文化財が多く令和元年・2年度に3つの日本遺産認定

【大阪府内の河内長野市の位置】



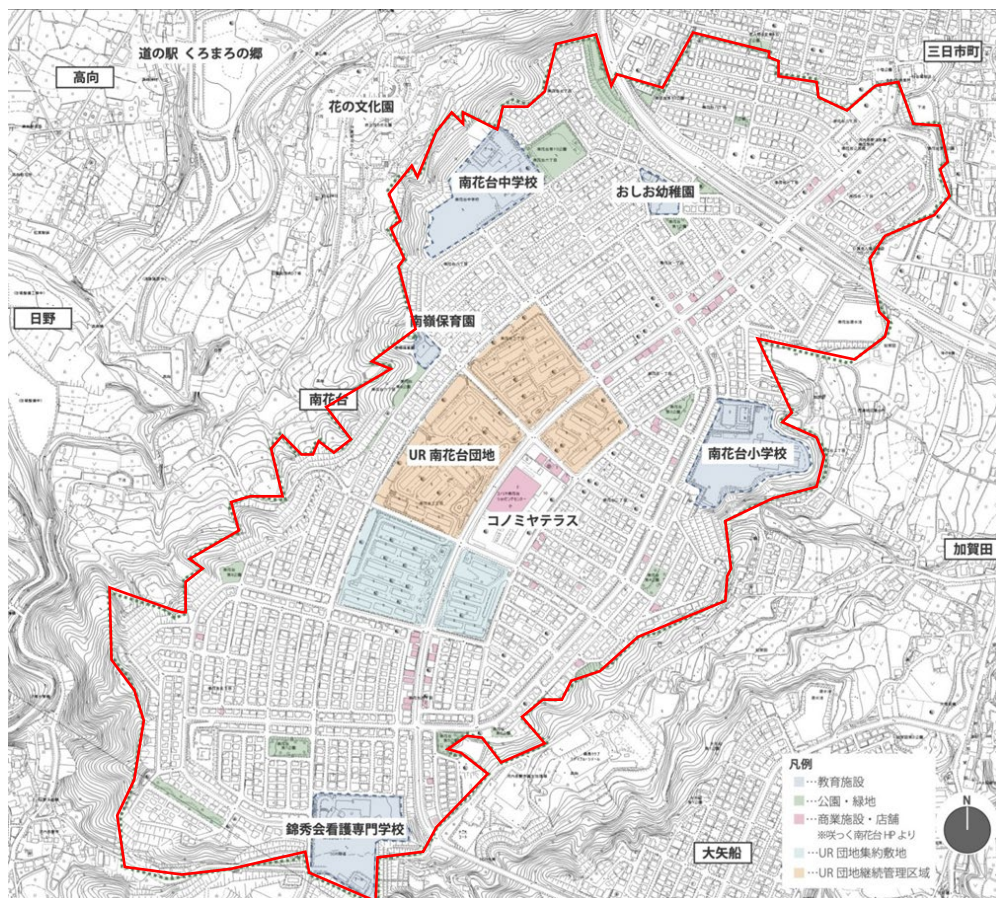
【河内長野市内の南花台地域の位置】



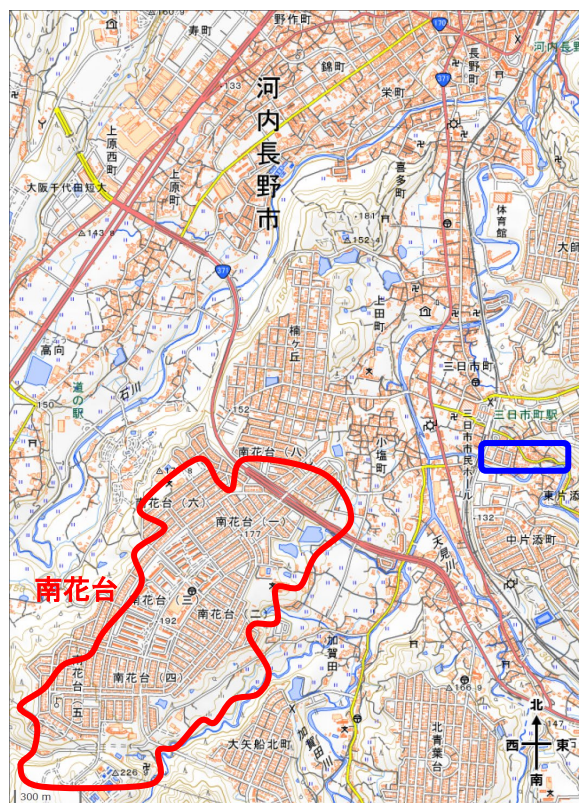
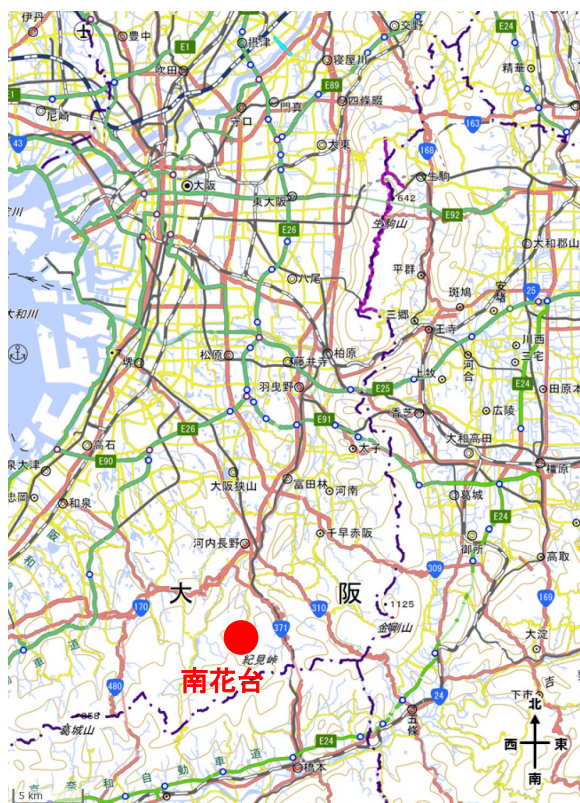
②南花台地域の概要

南花台は昭和57年にまち開きをした、面積98ha、計画戸数3,500戸の開発団地である。平成7年に人口が約11,400人とピークを迎えて以降、少子高齢化が進み、現在の人口は約7,000人、高齢化率も42%を超える典型的なオールドタウンとなっている。

【南花台地域の全体図】



出典：河内長野市資料



出典：国土地理院地図を一部加工

南花台までは、最寄り駅の南海高野線三日市町駅からバスによるアクセスが可能。また、国道 170 号や 371 号といった主要国道にも近く、車によるアクセスも良好。

○南花台の人口構成（南花台 1 丁目～ 8 丁目の合計）

年齢	人口	割合
0～4歳	135	7.5%
5～9歳	179	
10～14歳	223	
15～19歳	238	49.9%
20～24歳	282	
25～29歳	240	
30～34歳	285	
35～39歳	310	
40～44歳	359	
45～49歳	429	
50～54歳	365	
55～59歳	463	
60～64歳	587	42.6%
65～69歳	811	
70～74歳	965	
75～79歳	590	
80～84歳	326	
85歳以上	342	100.0%
総数	7,129	

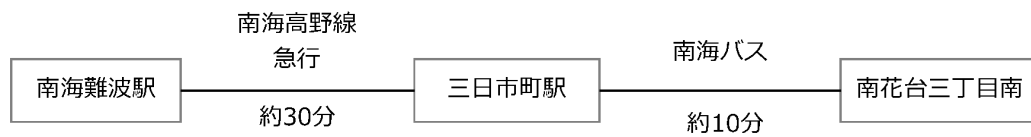
性別	人口	割合
男性	3,365	47.2%
女性	3,764	52.8%
総数	7,129	100.0%

出典：令和 3 年版河内長野市統計書より作成
令和 2 年 12 月末現在

最寄り駅からの公共交通は、南海三日市町駅から南花台の各地域までバスによるアクセスが可能。運行頻度は、三日市町駅発が昼間 3 本／時間程度。また、河内長野駅から三日市町駅を経由して南花台までを結ぶバス路線もある。

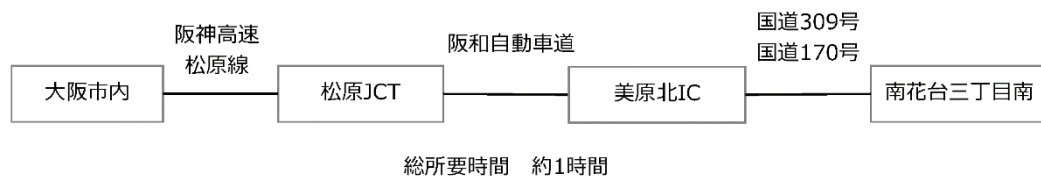
大阪市内からの自動車でのアクセスは、阪神高速道路松原線、阪和自動車道、国道 309 号、国道 170 号を経由するルートで、総所要時間は約 1 時間程度。

【主要ターミナル駅からのアクセス】



出典：所要時間はジョルダン HP 調べ

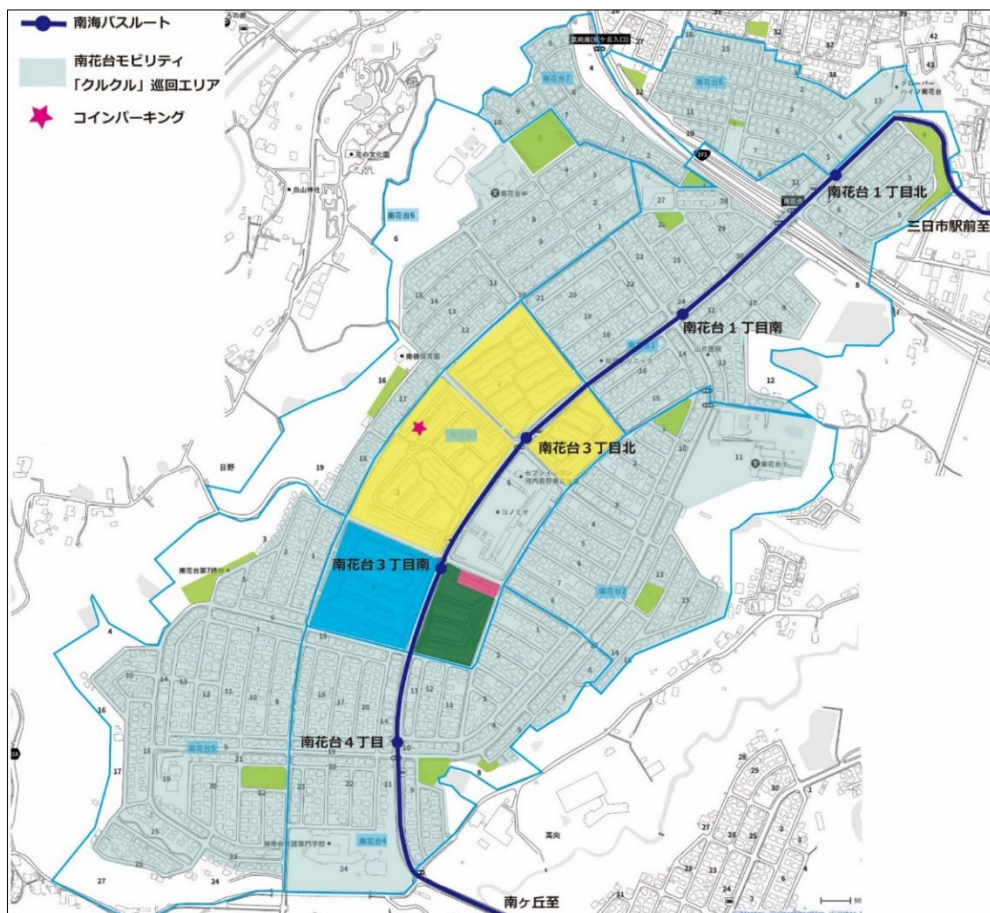
【大阪市内からの自動車でのアクセス】



出典：所要時間は GoogleMap 調べ

南花台の中心を貫くバス通り沿いに路線バス停留所があり、UR 団地内にはコインパーキングがある。また、南花台全域において、南花台モビリティ「クルクル」が走っている。

【南花台地域内のバスルート、コインパーキング、南花台モビリティ「クルクル」巡回エリアの位置図】



③南花台モビリティ「クルクル」について

高齢化が進む南花台地区においては、令和元年より、南花台モビリティ「クルクル」（電動ゴルフカート）を活用した、移動支援を地域住民主体により実施している。

○「クルクル（手動運転）」の特徴と運行概要

- ・地域住民主体の運営で社会福祉協議会の支援による運行
- ・地域内の電柱約 300 本を乗降ポイントとしたデマンド運行（システムによるリアルタイム予約）
- ・地域に愛される商業店舗との連携による運行
- ・環境に配慮した低速電動ゴルフカートを使用（最大速度 19km/h）
- ・毎週月曜日、木曜日の午前 9 時 15 分～午後 3 時 00 分の間、予約システムの指示に基づき運行
- ・予約に基づき A I 運行バスが導き出した順路に従い走行

また、令和 3 年 10 月からは、南花台モビリティ「クルクル」の取組みを拡大し、電磁誘導方式による自動運転の実装を開始。

○「クルクル（自動運転）」の特徴と運行概要

- ・デマンド運行時に利用の多かったルートを基に、周回ルート 2 コースを設定
- ・総距離約 3.7km、最大速度：12km/h
- ・交差点や停留所等における操作（減速・加速・一時停止・指示器等）もタグにより自動化（センサーにより衝突防止）

①自動運転の住民主体による実装、②自動運転の開発団地内での実装ともに全国で初の取り組みとなっている。

クルクル(手動運転)

<運行概要>
南花台地域の新しい移動手段として、地域内を低速で走る、デマンド運行の電動ゴルフカートです。運転から予約受付まで地域住民の方が行っています。乗降ポイントは南花台地区内の電柱等約330箇所です。乗降ポイントには緑のクルクルのロゴマークのついた看板を設置しています。

<走行日>
毎週月・木曜日
(天候・その他事情により急遽運休する場合があります。)

<予約方法>
予約受付時間 9:15~15:00
電話もしくは受付拠点での対面受付といたします。
(乗車時の注意事項を確実にお伝えするため)
電話：0721-62-5123
受付：コノミヤ南花台店 1F (旧休憩スペース)

クルクル(手動)の紹介動画はこちら




受付拠点

乗降ポイント

<車両>



クルクル(自動運転)

<運行概要>
実証実験として、低速の電動ゴルフカートで、定時・定ルートの自動運転走行を行います。ルート上に敷いた電磁誘導線を、車載センサーが感知して走行します。停止、減速、方向指示器の点灯なども自動で行います。

<走行日> 時刻表・走行ルートは裏面に記載
毎週土曜日 10:00-12:00
※10/16 (土) から運行開始します。

<乗車方法>
定時・定ルート走行のため、予約の必要はありません。
裏面時刻表を参考に、最寄りの乗降ポイントでお待ちください。黄色のクルクルが到着したら乗務員の案内に沿ってご乗車ください。
※「自動運転乗降ポイントの札」がついた看板が目印です。
※満席の場合乗車できないことがあります。
あしからずご了承ください。

クルクル(自動)の紹介動画はこちら




自動運転乗降ポイント

※自動走行の安全性について
乗務員が同乗し電磁誘導線上の停車車両などの障害物や飛び出し等には、手動で対応します。また、車載カメラがルートの映像を記憶し、障害物等を検知すると、自動停止する機能も記憶し、障害物等を検知すると、自動停止する機能も搭載しているので、さらに安全です。

<車両>



※令和 4 年 1 月 8 日～午後運行開始

1-3 事業発案に至った経緯・課題

①河内長野市が抱えている課題と対象地区の概要

河内長野市は大阪府郊外に立地するまちであり、開発団地整備で昭和40年以降に急激に人口が増加しベッドタウンとして発展してきたが、近年は開発団地を中心に著しく高齢化が進んでおり、市全域の高齢化率が35%を超えるなど、大阪府下の市で最も少子高齢化・人口減少が進んだまちとなっている。

昭和57年にまち開きをした南花台地区は、河内長野市の中部に位置し、UR団地・商業店舗を中心に戸建て住宅が展開する面積98haの開発団地であり、平成7年に人口が11,400人とピークを迎えるも、まち開きから約40年が経過した現在の人口は4割減の約7,000人、高齢化率も42%を超える典型的なオールドタウンとなっている。一方で、スーパーや飲食店など生活拠点として一定の機能を有するまちであり、開発団地が連なる市南部において、それらの玄関口に位置することから、市第5次総合計画において「丘の生活拠点」に位置付けられている。

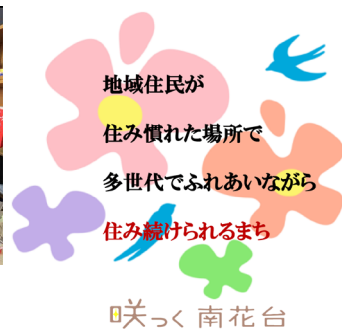
南花台地区は、平成26年より、地域住民が住み慣れた場所でいきがいをもって、多世代が交流しながら、暮らし続けることができるまちを目標とした、住民本位のまちづくり「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業を実施してきたエリアであり、地域の拠点である「コノミヤテラス」を中心として、様々なまちづくり活動が進められている。

そのような中、南花台地区においてのまちづくりの機運の高まりから、平成29年にUR都市機構にて、一部団地を集約する「UR南花台団地集約型団地再生事業」が開始された。その跡地活用について、地域住民とのワークショップやヒアリングを通じて検討を進め、地域の活性化やまちの魅力向上を図ることを目的とし、女子サッカーチームの本拠地となるサッカースタジアムの建設をするとともに、南花台地区内の既存公園の再編により、新たな公園を整備し、一体的にスポーツ公園として整備することを予定している。

②南花台地域のまちづくり活動（これまで実施している施策や関連事業等）

○これまでのまちづくりの経過

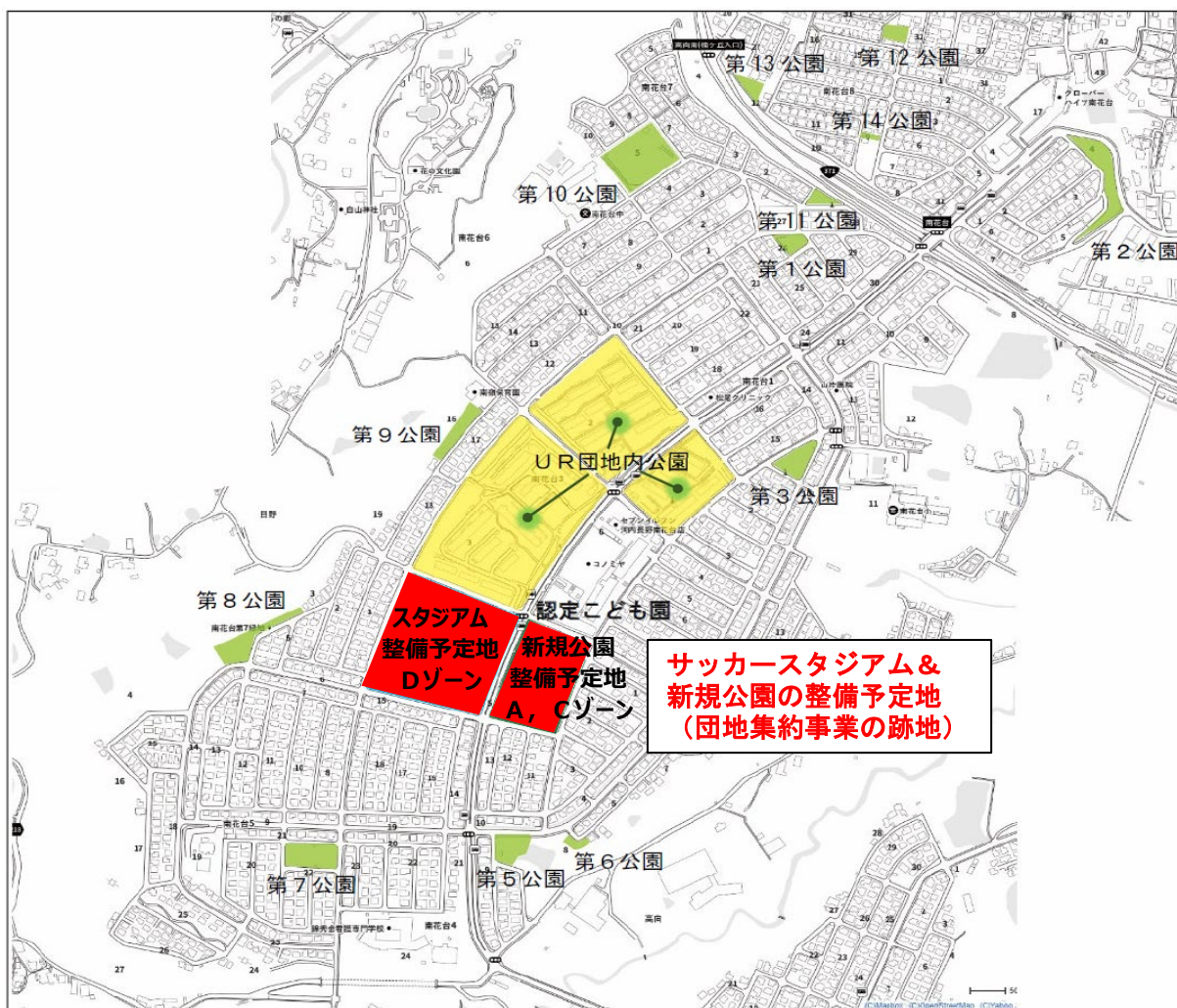
- 平成26年10月：「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立上げ
- 平成27年10月：(株)コノミヤより空き店舗を無償で借受け「コノミヤテラス」整備
- 平成28年3月：第5次総合計画にて「丘の生活拠点」、立地適正化計画にて「都市機能誘導区域」として位置付け
- 平成29年4月：南花台西小跡地を活用した錦秀会看護専門学校誘致（開校）
- 平成29年12月：UR都市機構において『UR南花台団地集約型団地再生事業』着手
- 平成30年2月：『南花台地区「丘の生活拠点」に関するまちづくり連携協定』締結（※UR都市機構・河内長野市・関西大学の3者連携協定）
- 平成30年12月：『南花台地区「丘の生活拠点」形成に向けたまちづくり連携協定』締結（※(株)コノミヤ・河内長野市・関西大学の3者連携協定）
- 平成30年度：内閣府「未来技術社会実装事業」採択（自動運転）
- 令和元年度：環境省「IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業」採択
- 令和2年10月：河内長野市と(株)スペランツァ大阪「ホームタウン契約」を締結
- 令和2年12月：UR南花台団地集約跡地の活用方針に関するアンケート実施



○団地集約事業に伴う跡地活用について

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業の取り組みが進み、まちづくりの機運の高まりから、UR 都市機構による団地集約事業が開始され、団地集約により発生する跡地を活用し、地域活性化、まちの魅力向上を図るため、サッカースタジアムの建設と既存公園の再編により、新たな公園の整備を行うことを予定している。

【サッカースタジアム&新規公園の整備予定地】



○団地集約事業に伴う跡地活用案

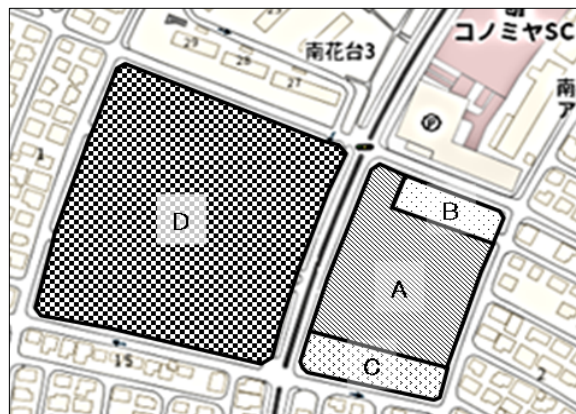
- ・【A、C、Dゾーン】を一体的にスポーツ公園としての整備を検討。
- ・【A、Cゾーン】の公園内には、設置許可で公園の魅力を高める新たな機能の誘致も視野に入れて検討。（例：カフェの設置など）

【Aゾーン】 公園整備(約 8,000 m²)

【Bゾーン】 認定こども園
(民間事業)

【Cゾーン】 Aゾーンと一体的に公園としての活用を検討
(約 3,800 m²)

【Dゾーン】 スタジアム建設
(約 27,000 m²)



③その他の現状の課題認識等

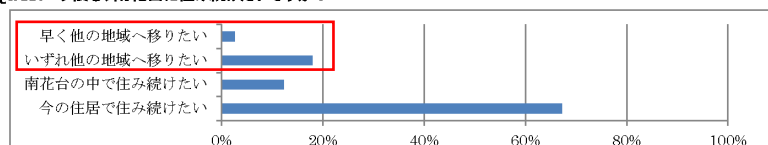
関西大学が実施した「くらしと地域に関する住民意識調査」のアンケート概要報告によると、他の地域へ移りたいと回答している主な理由として、「通勤が不便」「買い物が不便」「通院など日常の移動が不便」などがあげられている。このことから、地域内の生活利便性の充実や公共交通手段との連携などが求められていることが窺える。

また、「子供の遊び場の豊富さ」

や「子供を安心して遊ばせられる環境」の満足度が相対的に低い傾向から、地域内に複数箇所ある公園が有効に活用されていないことも懸念される。新たな子育て世代の転入を促進していくためには、点在する公園用地の再編や新たな利活用方策の検討などが重要と考えられる。

(1) 住み心地について

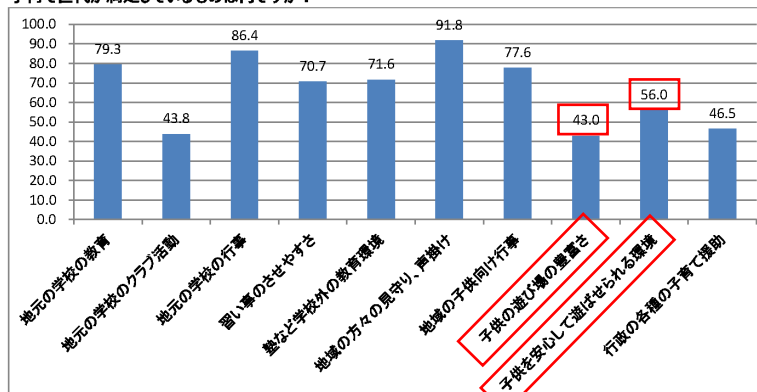
Ques. 今後も、南花台に住み続けたいですか？



■「南花台の中で住み続けたい（12.3%）」と「今の住居で住み続けたい（67.2%）」を合わせて、約 8 割の方が南花台で住み続けたいと思われていました。

■「いずれ他の地域へ移りたい（17.9%）」及び「早く他の地域へ移りたい（2.6%）」と思われている多数の方は、いずれも「通勤が不便」「買い物が不便」「通院など日常の移動が不便」を主な理由にあげられていました。

(4) 子育て世代が満足しているものは何ですか？



■「地域の方々の見守り・声掛け（91.8%）」に関する満足度が非常に高く、次いで「地域の学校行事（86.4%）」「地域の学校教育（79.3%）」の満足度が高い結果でした。

■「子供の遊び場の豊富さ（43.0%）」「地域の学校のクラブ活動（43.8%）」「行政の各種の子育て援助（46.5%）」などは満足度が低い結果となりました。

出典 関西大学「くらしと地域に関する住民意識調査」アンケート概要報告より

④本事業の目的、実施内容及び期待される効果等

○目的

団地や公園を一体的に集約し、民間事業者の新たな投資と新たな住民を呼び込み、高齢化が急激に進行する開発団地の再生モデルを構築する。

○実施内容

1. 公園を再編・集約することにより、常に人の目が行き届き、安心して活用可能な、地域住民が交流できる仕組みのある公園を整備する。
2. 集約する公園用地を活用して、秩序ある用途混在を実現し、第1種低層住居専用地域（変化の無いまち）に新たな変化を与え、まちの魅力と生活機能を高め、子育て世代のニーズに応えるまちづくりを目指す。
3. 団地集約事業の跡地用地を活用して、サッカースタジアムを建設し、女子サッカーチームが本拠地として活用することで、様々な分野においてチームと連携したまちづくりを展開する。
4. 公園及びスタジアムを地域住民の活動を通じて維持管理できる仕組みを構築するため、管理費用を原資とした地域ポイント制度の導入を検討する。

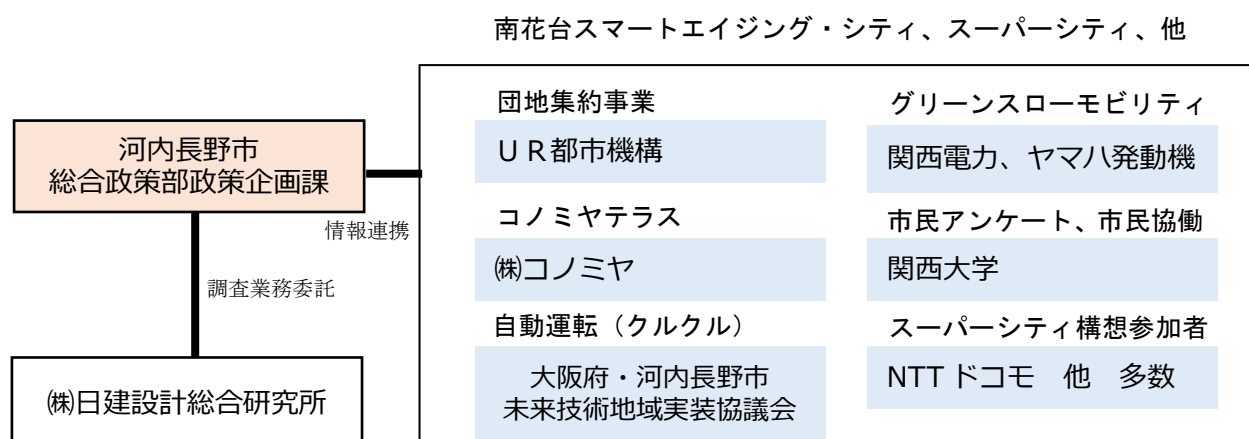
○期待される効果等

1. 地域交流の仕組みを持つ場が生まれ、地域のにぎわいを創出することができる。
2. まちの景観に変化が生まれるとともに、多機能化が図れることで地域の魅力を創出することができる。
3. 地域外からの交流人口が増え、バス路線や商業店舗の維持につなげることができる。
4. 地域ポイントにより地域のための活動（生活支援やまちの美化活動等）が活発化し、担い手の増加を見込むことができる。
5. サッカーチームとの連携により健康づくり、スポーツイベント等の地域コミュニティにつながる活動を増やすことができる。

1-4 検討体制の整備

①市内の検討体制およびその他の関係者との協力体制

本業務の検討体制を以下に示す。なお、「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業や「UR 南花台団地集約型団地再生事業」、スーパーシティ構想など、それぞれに関連する関係者や関係主体と適宜連携を図りながら本業務を進めていく。



2. 本調査の内容

2-1 調査の流れ

本調査業務の主な実施内容を以下に示す。

①本調査業務の主な実施内容

本報告書	調査フロー
第4章	①再編（公園集約・スタジアム建設）における市民ニーズ、周辺環境変化等の調査及び検討 ・住民参加のワークショップ等による意見収集・分析並びに情報発信 ・住民アンケート調査 ・人流分析・交通量調査・分析 ・交通流の分析及び適正駐車場台数の検討 ・再編課題整理及び解決策の検討 ・集約公園跡地活用案の作成
第5章	②公園再編、跡地活用、スタジアム建設、地域ポイントの仕組検討 ・全体事業スキームの検討 ・役割分担およびリスク分担 ・地域ボランティアポイントを活用した公園除草実証実験実施（アンケート調査の実施・分析を含む）
第6章	③民間事業者サウンディング ・集約公園跡地活用事業者サウンディング
第7章	④産官学民連携による新規整備公園・スタジアムの最適な管理手法の検討 ・事業スキーム検討 ・コスト算定、役割分担、リスク分担の検討
第8章	⑤事業実現に向けたロードマップの作成 ・成果のまとめ ・ロードマップの作成

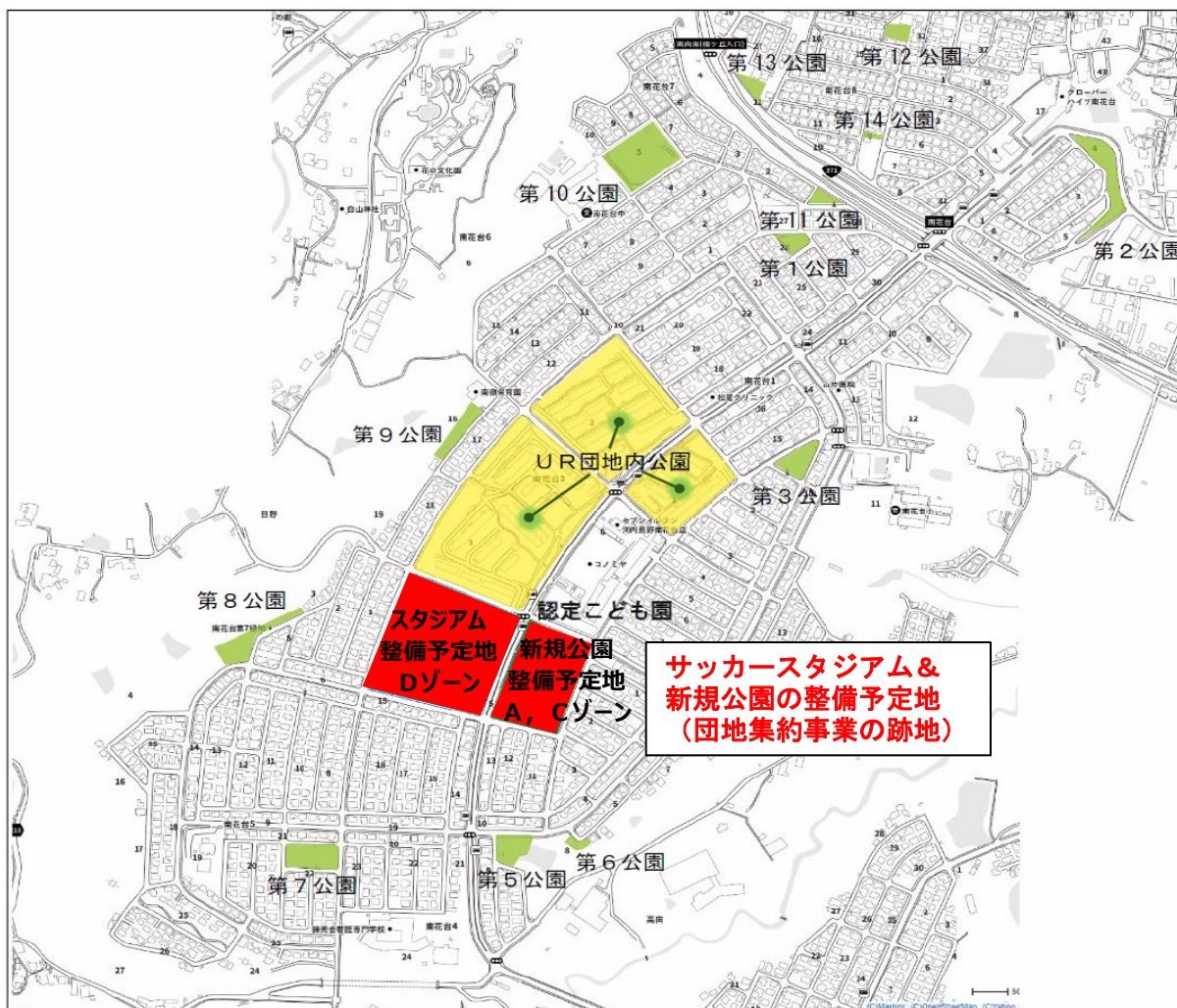
3. 前提条件の整理

3-1 対象施設及び対象地の概要

① サッカースタジアム整備及び新規公園整備の概要

UR 都市機構による団地集約事業に伴う跡地（A、B、C、D ゾーン）を活用し、サッカースタジアムの整備（D ゾーン）と新規公園の整備（A、C ゾーン）を予定しており、それぞれの整備予定地を以下に示す。

【サッカースタジアム&新規公園の整備予定地】



○ サッカースタジアムの整備について

【D ゾーン】には、サッカースタジアムを整備し、日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）1部に所属する女子サッカーチーム「スペランツァ大阪」が本拠地として活用することを予定している。

スタジアムの規模等の想定は下記の通りであり、整備費の財源としては国費（補助金）や企業版ふるさと納税等を想定している。

- WE リーグ基準
- 観客席：5,000 席以上
- ピッチの仕様：原則天然芝
- その他必要となる主な施設

- ・更衣室（選手・審判）
- ・ミーティングルーム
- ・運営本部室
- ・記録室
- ・放送室
- ・医務室
- ・授乳室
- ・記者室、など



【サッカースタジアムの整備イメージ（案）】



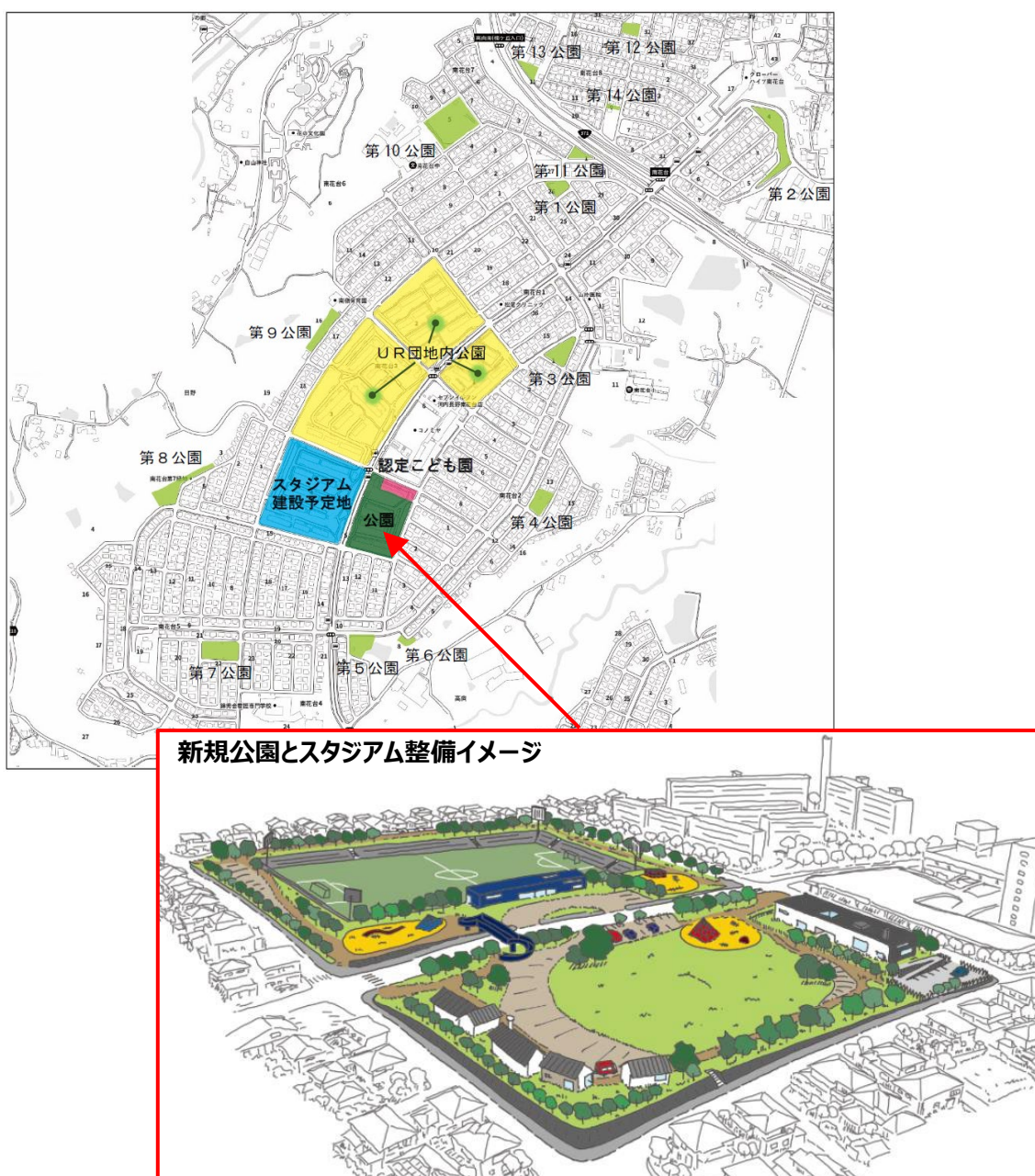
※サッカースタジアムの規模については、まず「なでしこ1部リーグ」の公式戦が可能な集客数1,000人規模のスタジアムを建設し、交通処理状況や地域への影響を見ながら、「WEリーグ」仕様への増築を段階的に進める計画などを検討中。

○新規公園の整備について

【A、Cゾーン】には、南花台に点在する既存公園を再編して規模の大きい公園を新設し、新規公園の利活用についてはまちづくりに効果的な活用方策を検討していく。また、新規公園の整備に合わせて、再編を行う市が管理する14の既存公園の活用方法についても合わせて検討していく。

新規公園については、公園施設の設置許可による常設または一時的なカフェの出店など、住民の利便性の向上や公園への集客並びに賑わいの創出に資する施設の設置の検討を想定している。また、既存公園については、新規公園の整備に伴い再編を検討するものであり、新規公園と同様に設置許可によるカフェなどの出店のほか、必要に応じて売却をした上で、民間事業者等に活用して頂くことについても検討をしていくことを想定している。

【新規公園の整備イメージ（案）】



②南花台地域内の 14 公園（既存公園）の概要

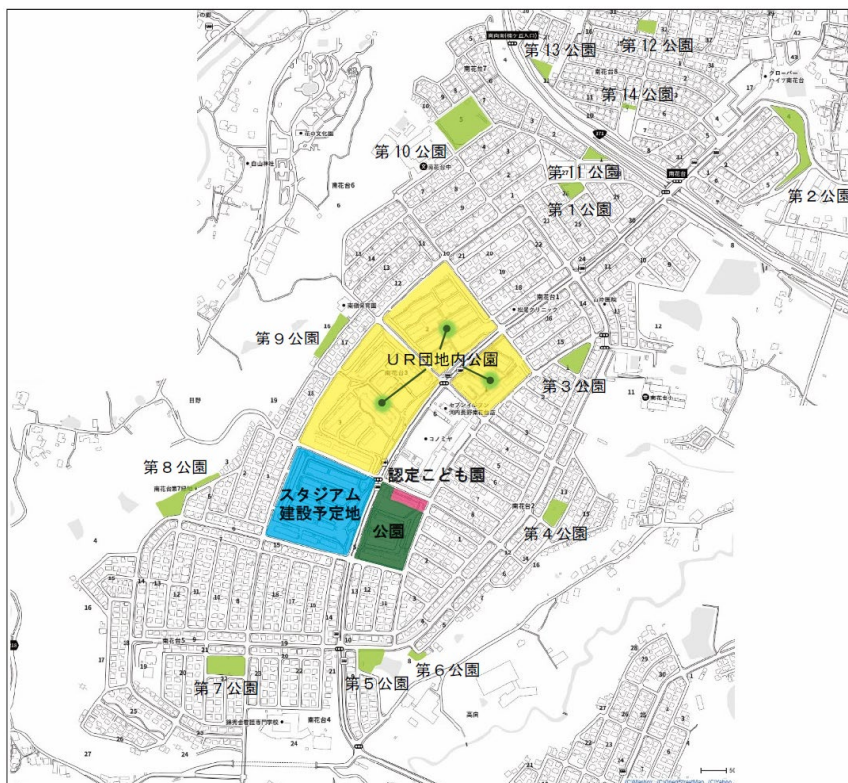
河内長野市が管理する南花台地域内の 14 公園（既存公園）の一覧表を、以下に示す。

【南花台地域内の 14 公園（既存公園）の一覧表】

名称	所在地	種別	面積	緑被率	主な施設
第 1 公園	河内長野市南花台一丁目440-189	街区公園	1,071㎡	36%	一方向ぶらんこ、太鼓はしご（アーチクライマー）
第 2 公園	河内長野市南花台一丁目440-260	街区公園	2,972㎡	61%	鉄棒、すべり台、着座型遊具(白くま・鳩)
第 3 公園	河内長野市南花台二丁目3635-89	街区公園	1,715㎡	68%	すべり台、サトビ型砂場
第 4 公園	河内長野市南花台二丁目1958-492	街区公園	1,416㎡	67%	すべり台、鉄棒、シーソー
第 5 公園	河内長野市南花台四丁目1958-672	街区公園	1,499㎡	51%	シーソー
第 6 公園	河内長野市南花台四丁目1958-669	街区公園	3,463㎡	22%	すべり台、サトビ型砂場
第 7 公園	河内長野市南花台五丁目77-60	街区公園	2,487㎡	31%	一方向ぶらんこ、すべり台、サトビ型砂場、 着座型遊具(リウ・パンダ・カサ)
第 8 公園	河内長野市南花台五丁目77-399	街区公園	1,370㎡	48%	一方向ぶらんこ、すべり台、サトビ型砂場
第 9 公園	河内長野市南花台六丁目1569-64	街区公園	8,430㎡	63%	鉄棒
第 10 公園	河内長野市南花台六丁目1569-46	街区公園	6,643㎡	1.4%	複合遊具(コンクリート製)、複合遊具、 一方向ぶらんこ
第 11 公園	河内長野市南花台七丁目440-315	街区公園	854㎡	53.59%	ベンチ
第 12 公園	河内長野市楠ヶ丘1924-150	街区公園	726㎡	60.5%	サトビ型砂場、鉄棒、すべり台
第 13 公園	河内長野市南花台八丁目1924-140	街区公園	1,687㎡	35.8%	サトビ型砂場、すべり台、 着座型遊具(リウ・パンダ・カサ)
第 14 公園	河内長野市南花台八丁目503-98	街区公園	391㎡	74.05%	ベンチ
【参考】 UR団地内公園					スプリング遊具（パンダ・コアラ・自転車・馬×2基・ 車）、砂場（2か所）、すべり台、1方向ぶらんこ

※公園面積については、法面部分を含む。

【南花台地域内の 14 公園（既存公園）の位置図】



【南花台第1公園の現状】



【南花台第2公園の現状】



【南花台第3公園の現状】



【南花台第4公園の現状】



【南花台第5公園の現状】



【南花台第6公園の現状】



【南花台第7公園の現状】



【南花台第8公園の現状】



【南花台第9公園の現状】



【南花台第10公園の現状】



【南花台第11公園の現状】



【南花台第12公園の現状】



【南花台第1 3公園の現状】



【南花台第1 4公園の現状】



本章では、再編（公園集約・スタジアム建設）における市民ニーズや周辺環境変化等を把握するために、以下の調査を実施する。

○住民アンケート調査

○人流・交通量調査・分析 1：交通量調査

○人流・交通量調査・分析2：公園利用調査

また、各調査結果を踏まえて、以下について検討・整理を行う。

○スタジアム建設における交通流の分析及び適正駐車場台数の検討

○再編課題整理及び解決策の検討

○集約公園跡地活用案の作成

○住民ワークショップ概要

住民アンケート結果をもとに南花台における理想の公園像を「公園を使いこなす先行事例」から住民が学び、地域住民がこれからの公園を考える「南花台の公園の未来予想図づくり」をめざし実施。特に、「南花台スマートエイジング事業」を通じて培ってきた、既成概念にとらわれない住民本位のまちづくりの姿勢から生まれる「南花台における理想の公園像とは？」をテーマにワークショップを行った。

公園の使用例、アンケート結果からわかる利用状況や傾向、今後の利用方法について、地域住民の声を勉強しながらまとめ、現在の困りごとや課題を整理して計画に反映するための意見を募集した。また、ワークショップ後は報告内容を発信し、意見公募をコノミヤテラスでも募集した。

○ワークショップのテーマ

「南花台の公園の未来予想図づくり」

アンケート結果をもとに南花台における理想の公園像を検討した。

○参加者の募集方法と参加状況

(1) 募集方法

南花台住民各戸へワークショップ案内のポスティングを行い、1回目、2回目、意見公募に際して話し合いの報告チラシを作成した。

①ワークショップ案内チラシ ②1回目報告号 ③ワークショップ案内チラシ(2)

[illegible]

⑤意見公募チラシ

[illegible][illegible]

- (2) 参加者の状況
合計：71 名
11/28（日）：10 名、12/19（日）：15 名、2 月意見公募：46 件

- (3) プログラム
1回目 11/28 (日)

時間	内容
13:00	受付
13:30	開会 ワークショップテーマ アンケートから考える未来の南花台 再編（公園集約・スタジアム建設）経過説明 河内長野市
13:40	「公園利活用調査について」 日建設計
13:50	「公園利活用調査の世代別クロス集計分析結果について」 NPO 法人 SEIN 宝楽／一般社団法人カンデ 関谷
14:15	ワークショップテーマ「アンケートから考える未来の南花台」
14:45	閉会

- 2回目 12/19 (日)

時間	内容
13:00	受付
13:30	開会 ワークショップテーマ 公園ってここまでできる勉強会 について解説 SEIN 宝楽／一般社団法人カンデ 関谷
13:35	1 回目のふりかえり・アンケート結果について SEIN 宝楽
13:45	公園ってここまでできる勉強会 一般社団法人カンデ 関谷
14:05	ワークショップテーマ「南花台の公園は〇〇までいきたい！」 NPO 法人 SEIN 宝楽／一般社団法人カンデ 関谷／日建設計総合研究所

14:30	全体意見交換
14:45	閉会

3回目 2月実施/Youtube 動画にて解説動画を公開し、意見箱で意見回収を実施

時間	内容
第1部(10:52)	アンケート結果・ワークショップの報告 SEIN 宝楽／一般社団法人カンデ 関谷
第2部(14:26)	公園の先進事例と意見募集の内容解説 SEIN 宝楽／一般社団法人カンデ 関谷

(4) 意見公募について

新型コロナウイルス感染拡大を受け、対面のワークショップではなく、紙面や動画を用いて意見を募集した。動画(2本)は、アンケートの結果や、地域住民の意見や先進事例の紹介をまとめてお伝えし、改めて意見を集めるものとして実施した。

【意見投稿フォーム】

<https://forms.gle/w7pz8fexolBwCc3m8>

回収内容 年齢 お住まい(南花台何丁目か)

Q1 どんな年齢層の方がどんな風に過ごしているイメージですか?

Q2 それを実現するための理想の真ん中の公園機能・仕組み

ワークシート1

Q1 どんな年齢層の方がどんな風に過ごしている?

どんな人が つかっている? 年代 ふだんどんな事している?	06:00 09:00 12:00 15:00 18:00 21:00
--	--

例 放課後に小学生が
芝生広場でサッカーの練習をしている

ワークシート2

Q2 それを実現するために理想の真ん中の公園機能・仕組み

南花台の真ん中の公園を理想に近づけるためには、

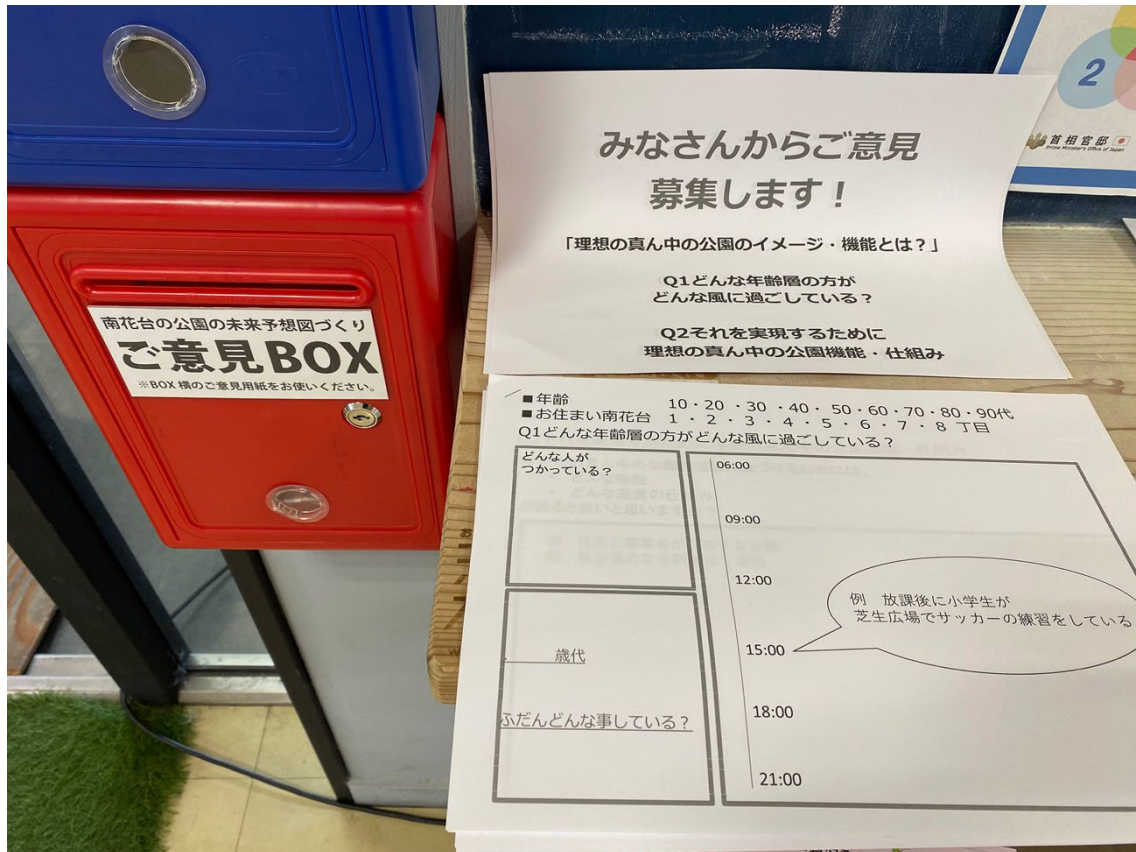
- ・ どのような機能
- ・ どのような運営の仕組み

があると良いと思いますか?

例 住民と事業者が管理する公園
例 集会場的な役割を担う場所

【意見公募のための工夫】

意見投稿フォームでのオンラインでの公募以外に、地域の拠点であるコノミヤテラスにてワークシートの配布と意見公募箱を設置した



デジタルサイネージを活用し意見公募の Youtube の再生を継続的に実施した



動画以外にもワークショップで配布した資料掲示を行った。



【意見を募集した動画】

第1部(10:52) アンケート結果・ワークショップの報告

https://www.youtube.com/watch?v=H_s-70BbwM8



第2部(14:26) 公園の先進事例と意見募集の内容解説

<https://www.youtube.com/watch?v=JdGGKk6c04o&t=0s>

